

# 特別支援学級（自閉・情緒） 自立活動学習指導案

すみれ学級 2名

授業者 正木 隆博

## 1 単元名 こんなときどうする？

## 2 指導にあたって

### 【児童観】

本学級の児童は、男子2名で全員4年生である。A児は、災害を想定した避難訓練では機敏に行動し、交流学級の児童とともに静かに行動することができる。はじめての事や先々の事で不安が募ることがあり、急な行事変更など突発的な出来事には混乱し、戸惑うことが多い。素直でまじめな学習態度でおおむね指示に従えるが授業中、生活面でも指を動かしたり声を出したりするなどの常同行動も出ることが多い。

B児は、学習中地震が発生した避難訓練でもすばやく机の中に入るなど災害が起きたときどう行動すべきか理解している。本人は、地震や災害、防災等に関する本に興味をもっていて、時間をみつけては読む姿が見られるなど防災に関する知識も多い。ただ、学習面生活面で気に入らないことや自分の考えと合わないことがあると暴言を吐いたりパニックになったりすることがある。パニックになると物や人にあたることがあるので、クールダウンするための場所と時間が必要となることが多い。

### 【教材観】

本校の避難訓練で、本学級の児童は1次避難所から2次避難所への避難について経験している。大地震や津波などの災害だけでなく最近の台風などの風水害においても数多くの人たちが避難所での生活を余儀なく強いられることが見られるようになってきている。本校は福良地区における津波などの災害の避難所に指定されているが、避難所や避難所での生活については漠然としたイメージをもっているだけで普段の日常生活といかにかけ離れたものか認識がないと思われる。また、どんなときに災害が発生するか分からないので家族と離れて1人で避難し、1人で避難所生活を送る可能性もある。

本学級の児童は、突発的な出来事に対して対応しにくいので、避難所や避難所生活の困難さについて知り、もし1人になったときの行動や心を、自ら落ち着かせる方法を探ることは必要である。備蓄倉庫にある簡易ベットや簡易トイレがどういうものか知り、実際に段ボールで自分の居場所を作ることで避難所生活の具体的なイメージをもつことができる。

### 【指導観】

指導に当たっては、まず地震、津波、風水害等で命に危険がある場合、避難所へ避難する可能性があることを知らせ、避難所の役割や機能について備蓄庫にある具体的な事物や写真を用いながら理解させたい。また、避難所での生活が、普段の生活と違って困難さがあることや1人で生活する大変さを理解し、もし1人になったときの自分の立場、心情を考えさせたい。そして、避難所での不安な気持ちから落ち着くための対処法を5年生の自然学校での避難所体験での居場所づくりを活用して、それぞれ自分で見つけるようにしていく。また、非常時において自分のできること、できないことを状況判断し、困ったことや手助けしてほしいことなどを自ら周囲に求めることができるように、様々な状況を想定した会話の練習をしていきたい。避難所での疑似体験を中心としたこの学習を通して、自分の命は自分で守り、災害が発生したとき自分から切り開いていくという意識をしっかりと持たせたい。

### 3 児童の実態と個別目標

	題材における実態	題材における目標
A児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害を想定した避難訓練では機敏に行動できる。ただ、はじめての事や先々すべきことがわかっていないと不安が募り戸惑うこともある。</li> <li>・防災に関する知識はやや少なく、関心も低い。自分の気持ちを言葉で伝えるのが苦手である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲的に学習に取り組み、避難所について知り、もし1人になったときの心を落ち着かせる対処法を段ボールの居場所づくりを通して見つける。 【2－(1)(2)】</li> <li>・困ったことや手助けしてほしいことを自分から他者に伝えることができる。 【6－(5)】</li> </ul>
B児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地震を想定した避難訓練では素早く机の下にもぐるなど迅速な行動ができる。ただ、しんどいことが嫌いでそのときの気分によって行動が左右されることが多く、指示に従えないことも多い。</li> <li>・防災に関する知識は多く、関心は高い。パニックになると落ち着くまでに時間がかかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心おだやかに、落ち着いて学習に取り組み、避難所についてイメージをもち、1人になったときの心を落ち着かせる対処法を段ボールの居場所づくりを通して見つける。 【2－(1)(2)】</li> <li>・気持ちが落ち着かないとき、自分の心を安定させるために手助けしてほしいことを他者に言葉や動作で伝えることができる。 【6－(5)】</li> </ul>

【2－(1)】情緒の安定に関すること

【2－(2)】状況の理解と変化への対応に関すること

【6－(5)】状況に応じたコミュニケーションに関すること

### 4 単元計画（全2時間）

(1) 地震、津波のこわさを知ろう [1時間]

(2) こんなときどうする？ [1時間 本時]

### 5 本時の目標

地震や津波の際、避難所で心が不安になったときの対処法を考えることができる。

【2－(1)(2) 6－(5)】

### 6 防災の視点（※）

避難所での想定される生活について知り、避難所での行動について考えることができる。

## 7 本時の展開

学習活動	指導上の留意点 (○)・防災の視点 (※)
<p>1 毎日の運動をする。</p> <p>2 学習のめあてを確認する。</p>	<p>○天井体操、バランスボール運動をさせながら、気持ちを落ち着かせる。</p>
<p>地震や津波の際、避難所でどのようにしたら心落ち着いて過ごせるだろうか。</p>	
<p>3 避難所生活・地震・津波等に関連した防災クイズを行う。</p> <p>4 避難所の写真を見て、日常生活との違いを見つける。</p> <p>5 避難所に自分がいたとするとどんな気持ちになるか考える。</p> <p>6 自分が落ち着くための居場所づくりをする。</p> <p>7 ふり返りをする。</p>	<p>○クイズをすることにより、前時の復習をしながら避難所生活への関心を高める。</p> <p>○子供たちに回答させる際は理由を考えさせる。がんばった時は「がんばりシール」を貼らせ、意欲づけとする。</p> <p>※地震や津波の怖さを知り、命を守る行動を考える。</p> <p>○パワーポイントで作成した資料を見せ、日常生活と違うところをさがさせ、何が困るか考えさせる。</p> <p>*非常時の生活について知り、どんなことが困るかを考える。</p> <p>○効果音（大勢の人の声）を聞かせることにより、いろいろな音声や音（雑音）が避難所では常にあることを体験させ、自分の居場所づくりの必要性に気づかせる。</p> <p>○自然学校の避難所体験の様子を写真で見せ、心落ち着くような居場所を各自、自由に作れるよう支援する。</p> <p>※段ボールで作った簡易ベッドや簡易トイレなどを見たり体験させたりして日常生活とは違うことを理解させる。</p> <p>○ふり返りカードに「がんばりシール」を貼らせ、宿題は本時の学習をおうちの人に伝えることであることを伝える。</p>

## 8 評価

避難所について知り、避難所で心が不安になったときの対処法を考えることができたか。

## 特別支援学級（肢体不自由） 自立活動学習指導案

たんぼぼ学級 1名

授業者 山川 眞美

1 単元名 そなえあれば うれいなし ～自分の命を守ろう～

2 指導にあたって

### 【児童観】

本学級は、4年生女子1名が在籍している。学校では、歩行器（状況に応じて車椅子）で移動をしている。一人でいることはほとんど無いが、もしもの時に助けを呼ぶために歩行器にかごを付けて、その中に防犯ブザーを入れている。まだ、実際に使う場面はなかったが使い方は知っている。事前に防災知識や避難についての簡単なアンケートを実施した。その回答から「状況に応じて行動は、どのようにするか」「災害に備えて自分ができること」「校舎の2階、3階にいる時、どのように避難するか」などについて意識が高くないことが分った。防災の学習では、あまり自分事として考えられてないようである。また、明るく真面目に頑張るが、教師と2人で過ごすことが多いので、「言わなくても分かってもらえるだろう。」と思っているところが見られる。また、語彙数が少ないため、どんな言葉でどのように言えばよいのかが分らず考え込んでしまう場面が時々ある。

### 【単元観】

災害発生時、肢体不自由児である本学級児童は、自力避難の困難さがある。閉じ込められた時、大きな声を出して助けを求めたり、自分で判断したりしなければならぬことがあるかもしれない。その時に、自分の体について理解し、落ち着いて安全に少しでも早く避難し自分の命を守ることにについて考える学習は必要である。また、いつ起こるか分からない災害に備え、必要なことは何かについて考えておくことは大切である。本学級児童は、考える事や自分の意見を他者に伝えることが苦手である。災害の時に起こるであろう様々な状況を想像させ、自分の命を守るには、どうしたらよいか考えさせる。災害発生時、また災害発生後、自分自身で「できること」「できないこと」があることが分かり、できないことについては、近くの人に自分からと助けを求めることが必要である。本単元では、自分の考えを自分の言葉で伝える学習活動が中心となる。この学習を通して、自分から大切なことをはずかしがらずに言える力を身につけることができると考える。

### 【指導観】

指導にあたっては、まず、自然災害は、地震や津波だけではなく台風、洪水、竜巻、土砂災害、火山噴火などがあることを理解させる。さまざまな自然災害がある中で、お家の人から話を聞いている「南海トラフ大地震」に備え、自分の命を守るために、地震発生を想定して学習を進めていく。第2時では、地震発生時に身を守る方法と助けを求める方法を考えさせたい。身を守る方法として「身を低く、頭を守って、動かない」を押さえておきたい。特に、避難をするときは、1階以外は歩行器や車椅子での自力避難は難しいことに気づかせる。自分の体の状態を理解した上で安全にできるだけ早く避難する方法については、時間をかけてやりとりをしながらじっくりと考えさせたい。本時では、地震が起こると日常生活で困ることを考えさせ、肢体が不自由なので必要な物があることにも気づかせたい。いつ起こるか分からないからこそ日頃の備えが大切なことを理解させたい。そして、地震に備えて準備しておけ

ばいいことの中で、本学級児童が、1番に思いつくであろう非常持ち出し袋について考えさせたい。非常持ち出し袋に準備する品物が、イメージできるように絵カードを用意し選んで貼る活動を取り入れる。さらに、非常持ち出し袋の準備だけでなく、地震に備えて自分にはどんな手助けや準備が必要かについても考えさせたい。単元を通して、防災学習に興味を持って取り組むことができるように、絵カード、ワークシート、状況カードでのクイズ、写真、絵本などを使用していきたい。また、学習活動の中で、自分で考え伝えることの大切さを分からせるとともに、自分の命は自分で守る意識をしっかりと持たせたい。学習のまとめでは、「備えあれば憂いなし」のことわざにも触れ、家庭との連携を図るために、本学級児童が自ら学習して学んだことをお家の人に伝えられるように働きかけたい。

### 3 児童の実態と個別目標

	単元における実態	単元における目標
A児	<ul style="list-style-type: none"> <li>地震を想定した避難訓練では、自分で机の下にもぐることができ、身を守る行動は身につけているが、防災に対する関心はあまり高くない。また、自分で考えることや自分の意見を他者に伝えることは、苦手である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 肢体が不自由であるので、自力避難が難しいことを理解する。【1－(4)】</li> <li>・ 災害時、安全に行動でき、日頃から備えておけばよいこと・ものについて考える。【2－(2)】</li> <li>・ どんな状況でも、困っていることや手助けして欲しいことを自分から他者に伝えることができる。【6－(5)】</li> </ul>

【1－(4)】 障害の特性理解と生活環境の調整に関すること

【2－(2)】 状況の理解と変化への対応に関すること

【6－(5)】 状況に応じたコミュニケーション能力に関すること

### 4 単元計画（全5時間）

- |                         |          |
|-------------------------|----------|
| (1) 自然災害について            | [1時間]    |
| (2) 地震が起こったら            | [2時間]    |
| (3) 地震にそなえよう            | [1時間 本時] |
| (4) まとめ（絵本「地震がおきたら」を使用） | [1時間]    |

### 5 本時の目標

自分の特性を理解し、地震に備えて自分に必要なことを考え発表することができる。

【1－(4) 2－(2) 6－(5)】

### 6 防災の視点（※）

災害時に備えて非常用持ち出し袋を用意しておくことが必要であることに気づき、準備するもの考える。

7 本時の展開

学習活動	指導上の留意点 (○)・防災の視点 (※)
<p>1 ラジオ体操 (座位)、エプロンの着脱をする。</p> <p>2 本時のめあてを確認する。</p>	<p>○毎時間自立活動の最初に取り組んでいることを行うことにより、本時の学習への心の準備とする。</p> <p>○ラジオ体操では腕を大きく動かし、エプロンの着脱では丁寧にたたむことができるように声かけをする。</p> <p>○学習の見通しを伝え、本時のめあてを確認させる。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">地震に備えて必要なことは何だろう</div>	
<p>3 地震に備えて必要なことを考える。</p> <p>・ライフラインが止まった時 (携帯トイレ)</p> <p>・手助けしてほしいこと (ヘルプカード)</p> <p>・非常持ち出し袋について</p>	<p>○地震が起こるとどんな困ることがあるかを考える手がかりとして写真 (地震発生後、避難所) を提示する。</p> <p>○地震が起こるとライフラインが止まることを具体的に考えさせ、いつもの日常とは違う生活になることを理解させる。</p> <p>○水が止まると多目的トイレが使用できないことに気づき、携帯用トイレが必要なことを分らせる。</p> <p>○肢体が不自由であることから車いすや歩行器は、必需品であることを理解させる。</p> <p>○自分ができることできないこと、手助けしてほしいことをヘルプカードにまとめさせる。</p> <p>※地震に備えるために非常持ち出し袋を用意しておくことよいことに気づかせる。</p> <p>○ワークシートに絵カードを貼る作業をすることにより非常持ち出し袋に準備するとよいものを視覚的に分らせる。</p> <p>※非常持ち出し袋に準備する物として選んだ理由やなぜそれが必要なのかを自分の言葉で話させる。</p>
<p>4 本時のふり返しをする。</p>	<p>○本時の学習でわかったことを自分の言葉で発表させる。</p>

8 本時の評価

- ・地震に備え、自分に何が必要かを考えることができたか。
- ・自分の気持ちや考えを自分の言葉で伝えることができたか。

# 特別支援学級（知的） 自立活動学習指導案

ひまわり学級 1名

授業者 増井ちとせ

1 題材名 じしんがきたら、どうする？

2 指導にあたって

## 【児童観】

本学級の児童（6年男子）は、日頃から地震に対する認識をもっており、授業中に地震が起こった際にも教師が言わなくても机の下に入ることができている。自宅で地震が起こったときも、「じしん」「こわい」と言っていて、地震は怖いもの、地震が来たら逃げなければいけないという意識はもっている。学校で行われる避難訓練でも交流学級の児童とともに静かに行動することができている。しかし非常ベルが誤作動で鳴り続けたときに、怖くて動けなかったことがあったので、突発的な出来事には上手く対応しにくい面があり、自分の気持ちを言葉に表すのが難しい。

## 【題材観】

学校での避難訓練では1次避難、2次避難を体験している。避難生活で使える道具づくりや非常食を食べる活動はしているが、避難をしたら日常とは違う生活をするということになるという認識はない。昨今地震に限らず風水害でも長期の避難生活を強いられることが多くなってきている。日常生活とはどのように違ってくるのか、具体物を通して知っておくことが大切になってくる。未体験のことを想像して理解するのは難しいが、話を聞いたり、体験をしたりすることで災害時の自分の生活についてイメージを持つことができれば非常時に対応がしやすくなるのではないかと考える。また、自立活動で朝ご飯のメニューを作ったり、育てた野菜で調理をしたりしているが、非常時の食事について自分で作ったことはない。限られた道具、食材でどのように食事を作るのか、安全面に気をつけ、指先を使った作業を体験することも必要である。合わせて自分のできること、できないことを把握し、助けが必要なときは周りに支援を求めることができるように保護者と連携して、言葉の練習もしていく必要がある。

## 【指導観】

指導にあたっては、前時をふり返り地震が起こったときに命を守るために、どのように行動すればいいかを絵本の場面を見て思い出させ、動作を練習する。地震が起こっていつもと同じ生活ができなくなると、どんなことが困るのか図や操作活動をしながら知らせていきたい。避難をした後の生活について家族と選んだ防災用品の具体物を見たり、身の周りの物で教師と一緒に作ったものを使ったりしながら体験させたい。また、1時間の学習の中で1つのことを継続して行うのは難しいので、いくつかの学習を組み合わせ構成していきたい。児童は複雑な話の内容を理解するのは難しいが、物や言葉について興味をもったことはよく覚えている。見たことや体験したことを積み重ねて非常時の行動への一助にしていきたい。

### 3 児童の実態と目標

題材における実態	題材における目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>・初めてのことにはとまどいをもつ。</li> <li>・何か怖いと思ったときは、その場で動けなくなることもあり、自分の気持ちやしてもらいことを伝えるには支援が必要である。</li> <li>・具体物には興味を持ち使おうとするが、使い方は細かく説明したり、実演して見せたりする必要がある。</li> <li>・調理体験は意欲的に取り組むが、指先を使う作業には補助を必要とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な災害時の状況を想定して命を守る行動をとれるようにする。 【2－(2)】</li> <li>・困ったときに手伝ってほしいことを周りの人に伝えることができる。 【6－(5)】</li> <li>・避難時に必要な物を見たり、教師と一緒に作った物を使ったりする。 【4－(5)】</li> <li>・非常食の種類や調理方法について知り、安全面に気をつけて作業することができる。 【5－(5)】</li> </ul>

【2－(2)】状況の理解と変化への対応に関すること

【4－(5)】認知や行動の手がかりとなる概念の形成

【5－(5)】作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること

【6－(5)】状況に応じたコミュニケーションに関すること

### 4 指導計画 (全3時間)

(1) じしんがきたら、どうする? [1時間]

(2) ひなんしたら、どうする? [1時間 本時]

(3) 非常食を作ってみよう [1時間]

### 5 本時の目標

大きな地震が起こるといつもと同じ生活ができなくなることを知り、避難生活で使うものについて考える。 【2－(2) 4－(5)】

### 6 防災の視点(※)

大きな地震が起こったときには、いつもの生活ができなくなることに気づき、防災用品に関心を持つ。



## 7 本時の展開

学習活動	指導上の留意点 (○)・防災の視点 (※)
<p>1 前時をふり返り、本時のめあてを知る。</p> <p>2 「じしんのときどうするクイズ」をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おおごえでたすけをよぶ ○</li> <li>・たおれそうなものからはなれる ○</li> <li>・きになったものをとりにもどる ×</li> <li>・おかあさんをさがしてはしりまわる×</li> <li>・かじのけむりのなかをはしりまわる×</li> </ul>	<p>※地震が起こったときの行動について、絵本「どこがあぶないかな④ぼうさい」の場面を見せて、思い出させる。</p> <p>※地震が起こったとき、自分の命を守るためにどのように行動すればいいのか、大型しかけ絵本「じしんだ」をもとに考えさせ、動作化する。</p> <p>○自分の家の地区名や家族の名前を言う練習をする。</p>
<p>じしんがきたとき、どうしたらいいかしろう。</p>	
<p>3. 大きな地震が起こったら、いつもどおりの生活ができなくなり、どんなことが困るか知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電気・水道・ガスが使えなくなる</li> <li>・家の中の家電などが使えなくなる。</li> </ul> <p>4. 地震が起こって避難をしたときに、必要になるものについて考える。</p> <p>電気・・・ 懐中電灯、ろうそく 水道・・・ ペットボトルの水 食べ物・・・ 缶詰、レトルト食品                     カップ麺、アルファ化米</p> <p>5. 本時のふり返りをする。</p>	<p>○室内図の絵やパワーポイントを使って、災害時に何が使えなくなるか、×カードを置く操作活動を取り入れ、クイズ形式で考えさせる。</p> <p>※前時に家族と一緒に選んだ防災グッズを手にとって見せて、どのように使えばいいか考えさせる。新聞紙とビニール袋で、コップを一緒に作って使う。</p> <p>○非難するときに気を付けること、使うものについてまとめ、次時の非常食づくりにつなげる。</p>

## 8. 本時の評価

大きな地震が起きるといつもと同じ生活ができなくなることを知り、避難生活で使うものについて考えることができたか。